

勇美財団助成報告書

1 講演会の開催 (別紙)

1) 2010年3月6日(土)

永山ハウス集会室

リハビリ医とともに語る あせらず あきらめない街づくり

参加 約50名

2) 2010年3月20日(土)

永山公民館ベルブホール

がん哲学外来と相談窓口

参加 約20名

2 収支 (別紙)

助成金額 300,000円 使用額 241,688円

返却予定額 58,312円

理由 予定していた会場費が不要となったため

1回目 公共性の高い催しと認められ無料

2回目 共催した市民福祉ネット多摩が負担

3 まとめ

・テーマをリハビリやガンといった、具体的なものにした。これは、在宅医療が、あまり受け入れられていない場所で、具体的なものをしめた。そのことにより、病気症状と共存して生きるという在宅医療の基本事項に触れられたと考えられた。

・少人数であったが準備会、当日の討論会をふくめ 今後の医療在宅ですごすことをひとりひとりがじぶんのこととして、考えられる機会となった。

・当日の討論に加え、打ち合わせや懇親会、反省会で仲間づくりの拠点ができた。

大ニセ ひとみ 

リハビリ医とともに語る あせらずあきらめない街づくり



私たちは、死ぬまで元気でいたいと願っています。
でも、私たちは、病気になるったり、障がいを持つこともあるし、
歳を重ねていきます。最期の時もきます。
そんなときこそ楽しい時間を持ちたい、自分らしい
しあわせな生活を続けたいと思いませんか。

日時 2010年3月6日(土)
時間 18時30分～20時
場所 永山ハウス集会室 多摩市諏訪1-65-1

基調講演 長谷川 幹 桜新町リハビリテーションクリニック 院長

申込・連絡先

ひとみタウンケアクリニック内
Nハウスほらほらプロジェクト
TEL 042-338-3281
FAX 042-338-3282
hippomii234@ab.aunone-net.jp
当日直接会場にお越し頂いても入場できます

講演会参加費・無料

終了後、懇親会を行います(参加費2000円)

この講演会シンポジウムは勇美財団の助成を受けて行っています



シンポジウム

がん哲学外来と相談窓口

～最期まで安心して 住み続けられる街づくり～

2010年
3.20 (SAT)

13:30～16:30

永山公民館ベルブホール

がん哲学外来とは、がん患者と家族の安心につながる対話の場。(NPO がん哲学外来より)この街で、最期まで安心して住み続けるために必要なもの。

どこに行けば、それが見つけれられるのか。
様々な病気やお困りごとを、地域で支えあえる
あんしんシステムを考えてみませんか？

プログラム

13:30～ 基調講演 『がん哲学外来』

樋野興夫

順天堂大学医学部 病理腫瘍学 教授

15:00～ シンポジウム 『相談窓口』

中島朋子

東久留米白十字訪問看護ステーション 所長・看護師

上田雅美

介護老人保健施設サルビア 事務長・介護支援専門員

秋元孝夫

NPO法人 まちづくり専門家会議 代表・一級建築士

共催：市民福祉ネットワーク多摩・関戸公民館市民共同企画
社会システムデザインプロジェクト・Nハウスほらほらプロジェクト

連絡先：かしのき保育園内 担当 福島 042-372-3475

参加費：資料代 300円



この講演会シンポジウムは勇美財団の助成を受けて行っています